

## 後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）宮古ブロック 会議録 【宮古ブロック：宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村】

○ 日 時：令和元年8月21日（水）14時00分～16時00分

○ 場 所：宮古地区合同庁舎 3階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

宮古市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

山田町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

岩泉町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

田野畑村関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

宮古教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般7人、報道0人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 宮古ブロックの状況について

【県教委】

- ・ 資料No. 1「宮古ブロックの状況について」に基づき説明。

【熊谷 岩泉うれいら商店会上あめや代表】

- ・ 参考資料No. 2ブロック間交流の状況について、全県の中で、胆江ブロックから他地区への転出が際立って多いように見えるが、理由について伺いたい。

【県教委】

- ・ 交通の便が良く、通学可能な範囲に私立高校を含め、普通高校、専門高校等、多くの学校があり、選択肢が多いこと等が理由として考えられる。

【末村 岩泉町副町長】

- ・ 参考資料No. 2ブロック間交流の状況について、宮古ブロックの転入、転出を見る上で、基となる母数について教えていただきたい。

【県教委】

- ・ 資料の基となるのは、中学校卒業生数であり、宮古ブロックの平成31年3月の卒業生数は652人である。

2 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

各地域における学校・学科の配置について

【県教委】

- ・ まず、ブロックの現状及び課題等、議論の方向性について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

**【県教委】**

- ・ 資料「後期計画策定に向けた意見交換（宮古ブロック）」に基づき説明。

**【県教委】**

- ・ それでは、1点目「現状を踏まえ、今後、宮古ブロックに必要な学校・学科について」に関する御意見をいただきたい。

**【三上 岩泉町教育委員会教育長】**

- ・ 中学校卒業生数が減少している現状を踏まえながら、宮古地区を広域に考え、地域産業の担い手を育成する必要があるのではないか。
- ・ 現在、宮古ブロックに設置されていない林業に関する学科等の新しい学科を取り入れた上で、40人学級にこだわらない、今までとは違う発想で新しい学校を作る考えがあっても良いのではないか。

**【末村 岩泉町副町長】**

- ・ それぞれの地域が置かれている地理的条件の中で生き抜く人材の育成にとって、教育は重要であり、この観点から地域の方々や町教育委員会の中で意見交換をしているところである。
- ・ 参考資料 No. 3 の中学生の進路希望等に関するアンケート結果を見ると、普通科系を希望する生徒の割合が高いようであるが、従来の普通科の学びの中に、地域の文化や産業に根差した学びを加える等の新しい発想で魅力ある学校を作ってほしい。

**【佐藤 宮古市副市長】**

- ・ 資料 p 1 の後期計画における高校教育の目指す方向性（案）の中に、望ましい学校規模の確保による「教育の質の保証」と本県の地理的状況等を踏まえた「教育の機会の保障」の2点があげられているが、「時代や地域のニーズに即した魅力ある学校づくり」という視点も必要と考える。
- ・ 平成 31 年度入試における、宮古ブロックの定員充足率は 66.6%であったようだが、来年度の定員は減少する予定であることから、定員充足率については改善されると思われるが、深刻に受け止めなければならないのは、宮古ブロックの中学校卒業生の約 15%にあたる約 100 人が他のブロックに転出している現状である。転出を抑え、転入を促進するには、宮古ブロックにある高校の魅力づくりが欠かせないものとする。

**【甲斐谷 山田町副町長】**

- ・ 山田町から町外の高校に進学している生徒は、1年生から3年生までの合計で約 200 人であり、その内の多くの生徒が、宮古市内の高校へ進学している。
- ・ 宮古ブロックから転出している多くの生徒が、盛岡市内の高校へ進学している。理由として、部活動を中心に考えている生徒は一部いるものの、多くは、難関大学等への進学を考えた上で、高校を選んでいるのが現実である。
- ・ 現状から考えると、宮古地区を広域に考えた上での統合については、さらに議論を深める必要があり、時間も必要である。後期計画期間中においては、学級数の調整で対応するのが現実的であるとする。

**【相模 田野畑村教育委員会教育長】**

- ・ 田野畑村には、高校が無いため、村内の中学生全員が村外の高校へ進学している。盛岡、花巻等の内陸部や、久慈、八戸等にも進学している生徒がいる一方で、比較的近い範囲の宮古や

岩泉に進学している生徒が少ない状況にある。

- ・ これからの岩手の教育にとって、どのような教育が必要かという観点をもって高校再編を考えるべきではないか。数合わせの高校再編であってはならない。
- ・ 高校標準法によれば、1学級40人定員を基に教員配置がなされているようであるが、岩手において、この40人定員の考え方で良いのか、既成概念にとらわれず、岩手独自の考え方があっても良いのではないか。

#### 【三田地 小本浜魚業協同組合代表理事組合長】

- ・ 通学可能な範囲に高校は必要であり、少なくとも、全日制普通科については、通学可能な範囲に設置してもらいたい。

#### 【佐々木 山田町教育委員会教育長】

- ・ 山田高校の生徒が、町内の小学校に赴き、歯磨き指導を行うなど交流を図っており、町としても、地域全体で子どもたちを育てていこうとする機運が高まっている。
- ・ 山田高校では、「ふるさと探究」という授業の中で、生徒が町内の事業所に赴き、自分たちで課題を見つけ、調査を行い、成果を発表する活動を行っている。このような活動等によって、高校生は地域から多くを学んでおり、地域にとっても高校生との交流はプラスに働いているものと思われる。地域に根差した学校は必要であり、小規模でも残すべきと考える。

#### 【伊藤 宮古市教育委員会教育長】

- ・ 宮古地区の中学校卒業生の約1割以上が、盛岡を中心として他のブロックに転出しているとの説明があったが、この割合は長年変わらず続いている状況である。
- ・ 現在、宮古市内の中学校11校中7校では、1学年1学級となっており、3年間クラス替えがない状況である。高校においては、ある程度的人数の中で、切磋琢磨しながら学校生活を送ることも必要と考える。
- ・ これからの宮古地区の高校教育を考えた場合に、産業教育をどのようにするかについては、一番に考えなければならない。商業、工業、水産を合わせた産業教育について考える必要がある。
- ・ 個人的な案としては、来年4月統合予定の宮古商工高校と宮古水産高校を新校舎建設のもとで統合し、沿岸地区の産業教育の拠点校とするのが良いと考える。

#### 【末村 岩泉町副町長】

- ・ 地域の拠点となる学校と周辺部にある小規模校との連携や人的交流は、高校教育において重要であり、高校生が交流しあう機会を作ることは大切なことと考える。
- ・ 設置学科の6割強を占める普通科に、地元産業に関わる職業教育の内容をカリキュラムに組み入れることについても、文部科学省との交渉の余地があるのではないかと考えており、幅広く検討していく必要があると思われる。

#### 【小林 田老町漁業協同組合代表理事組合長】

- ・ 現在、旧田老町にある宮古北高校は、20人以上の入学者を確保しており、統合基準には該当していない。後期計画においても、宮古北高校を残してほしいと考えている。
- ・ 重茂、田老、宮古漁業協同組合で話し合い、宮古水産高校に養殖に関する学科を設置してほしいと宮古市に要望したところである。
- ・ 難関大学等への進学を理由に、沿岸部から内陸部の学校へ進学しているとの話があったが、沿岸部に進学に特化した学校の設置等を考えても良いのではないか。また、校舎制等も活用し

ながら地域に学校を残すようにしてもらいたい。

**【県教委】**

- ・ 宮古地区の高校教育を広域に考える視点が必要との意見については、そのとおりであると考えており、再編計画においては、広域で考える視点も重要であると認識している。
- ・ 普通科のあり方については、現在、政府の教育再生実行会議からの答申が出されている状況であり、国の動向も注視する必要があるものと考えている。
- ・ 新たに学科を設置する場合は、中学生の進路希望や地域のニーズ、学びの内容や教育課程及び、卒業後の進路等を考慮しながら検討することとなる。
- ・ 地域に学びの選択肢を可能な限り残し、その魅力を中学生にしっかりと伝えることは大切なことと考えている。各高校においては、より一層学校の魅力化に向けて取り組む必要があるものと考えており、県教育委員会としても協力していきたい。
- ・ 県では、大学等への進学対策として進学支援ネットワーク事業（将来の本県を支える人材の育成や地域の産業振興、地域づくりを担う人材の育成を目指すことを目的とする）を行っている。この事業においては、難関大学への進学に向けた講義や講演会等を実施しており、学校の枠を超えて参加することができるものである。

**【県教委】**

- ・ それでは、次に2点目「中学校卒業生数が後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から学校統合で対応する考え方等について」に関する御意見をいただきたい。

**【甲斐谷 山田町副町長】**

- ・ 後期計画最終年の令和7年3月の中学校卒業予定者数を見ると、現在と比べて大幅な減少がみられないこと等から判断し、後期計画期間中は、学級数の調整で対応しながら、学校については現状維持が良いと考える。ただし、後期計画後を考えた場合、現状を維持していくことが難しいことは明らかであり、宮古地区の高校のあり方を広域な視点に立って考えていく必要がある。

**【阿部 山田町商工会長】**

- ・ 来年度、山田町内の山田中学校と豊間根中学校の2校が統合し、山田中学校の1校となる予定である。町内に中学校、高校ともに1校となる中で、中高一貫校を設置しても良いのではないかと考える。併設型の中高一貫校と連携型の中高一貫校についての説明とあわせて県教委の考えを伺いたい。

**【県教委】**

- ・ 一関第一高校附属中学校は併設型の中高一貫校であり、県が設置している中学校である。市町村には、中学校の設置義務があることから、現状から考えて、山田町に併設型の設置は難しいものと思われる。軽米町、葛巻町においての中高一貫校は連携型であるが、連携型の中高一貫校においては、連携している中学校から一定数の進学者が必要となる。中高一貫校に限らず、以前に比べ中学校と高校の連携は進んでいるものと承知している。

**【伊茂野 岩手県中学校長会理事】**

- ・ 以前に比べ、中学生の進路の多様性が高まっているように感じている。生徒数が減少する中、

地域の良さや特性を生かした魅力ある学校づくりを進めてもらいたい。

- ・ 地域のニーズや中学生のニーズを十分に把握した上で、高校再編を考えてほしい。

**【櫻野 宮古商工会議所専務理事】**

- ・ 宮古商工会議所で調査したところ、会員の中で、後継者が未定またはいないとの回答が全体の6割に上っている。次世代を担う後継者は、地域にとって欠かせないものであり、その点においても地元の高校の役割は重要であると考えている。
- ・ 高校進学の際、他地区へ転出する生徒が多いとの話があったが、転出を抑える方策について考える必要がある。
- ・ 来年4月に、宮古商工高校が開校する予定となっているが、特に商業の学科においては、会計についての学びをしっかりと残してもらいたい。会計については、コンピューターで処理することが多くなっているが、その場合においても、会計の原理原則等を理解していることが重要である。

**【鈴木 宮古商業高校副校長】**

- ・ 来年度開校予定の宮古商工高校に新設される総合ビジネス科の中に、会計を中心に学ぶコースを設けることとしている。

**【相模 田野畑村教育委員会教育長】**

- ・ 宮古ブロックを考えるときに、宮古地区を広域にとらえながら、各地域それぞれの良さを生かす考え方と、宮古市を中心としながら周辺の地域を考える2つの観点があると思われる。
- ・ 田野畑村には、高校が無いことから、通学に時間と費用がかかるという現状があることも理解いただきながら高校再編を考えてもらいたい。

**【佐々木 山田町教育委員会教育長】**

- ・ 教育の機会の保障の観点から、経済的な面、物理的な面の両面を考えあわせた上で、生徒が安心して通学できる環境を維持してほしい。
- ・ 後期計画においては、現在の学校を維持しながら学級数の調整で対応する方が良いと考える。

**【小原 山田町立山田中学校PTA会長】**

- ・ 三陸鉄道の開通によって、交通の便が良くなり、中学生にとっては高校の選択肢が増え、興味・関心に応じた進路選択が可能となっている。この状況を維持するため、現在ある学校は残してもらいたいと考えており、後期計画においては、学級数の調整で対応してもらいたい。

**【熊谷 岩泉うれいら商店会上あめや代表】**

- ・ 現在、岩泉高校の学校評議員をしているが、岩泉高校は、昨年度国公立大学に8名の合格者を出すなど、成果を上げている。これは、先生方が生徒一人ひとりに対して丁寧に指導していただいたことが要因であり、この点は、小規模校の良さであると考えている。

**【末村 岩泉町副町長】**

- ・ 自然と対峙しながら、長い営みによって育まれてきた地域の文化や産業を理解した上で、高校が地域と連携しながら教育を行うことは、高校の魅力にもつながるものと考えている。

**【佐々木 田野畑村立田野畑中学校PTA会長】**

- ・ 中学生に対し、もっと高校の魅力を発信すべきと考える。例えば、動画で高校の魅力を発信

することを考えても良いのではないか。

**【県教委】**

- ・ 自治体のホームページに高校を紹介する動画を載せているという例があることは承知している。アイデア一つのと看して、参考としたい。

**【佐藤 宮古市副市長】**

- ・ 教育の機会の保障を再編計画の柱の一つとしていることから考えると、後期計画期間中は、現在ある学校は残し、学級数の調整で対応すべきと考える。
- ・ 各高校においては、学校の魅力づくりに向けて積極的に取り組んでもらいたい。
- ・ 宮古市の重要な産業である養殖業の担い手の育成は重要課題と捉えており、地元漁業協同組合からの要望もあり、宮古市として、養殖科の新設を県に要望することとしている。学校を現状のまま残すのではなく、新しい学科も考えながら、高校の魅力化を進めてもらいたい。

**3 その他**

**【三上 岩泉町教育委員会教育長】**

- ・ 今回を含め、3回の検討会議を重ね、多くの意見が出されたわけであるが、地域からの意見を聞くだけでなく、県教育委員会としての考え方も具体的に示しながら議論すべきと考える。第4回の検討会議では、どのような意見交換等を考えているのか伺いたい。

**【県教委】**

- ・ 第4回の地域検討会議は来年の1月から2月の間で開催を予定している。後期計画案策定に向けたスケジュールとしては、今年度中に案をお示し、来年度中に策定する予定としている。第3回までいただいた意見を踏まえながら、どのような意見交換とするか、検討させていただきたい。

**【似内 田野畑自動車工業株式会社代表取締役】**

- ・ 高校再編に対する県の考え方や方向性が見える資料を示してもらいたい。具体的な話ができないまま、いつも同じような意見が出ており、議論が前に進んでいないように感じる。

**【県教委】**

- ・ 後期計画については、はじめに県としての案を示すのではなく、地域の皆様との丁寧な意見交換をしながら、教育の質の保証と機会の保障をどのように実現していくべきか検討したいと考えているところである。いただいた意見も参考としながら、第4回の地域検討会議の内容等について考えていきたい。

**【小林 田老町漁業協同組合代表理事組合長】**

- ・ 沿岸部に、不來方高校のような外国語を中心に学べる学科等を設置する考えはないのか伺いたい。

**【県教委】**

- ・ 県内では、不來方高校と花巻南高校に普通科の中に外国語に関わる学系を設置している。新たに学科を設置する場合は、中学生の進路希望や地域のニーズ、学びの内容や教育課程及び、卒業後の進路等を考慮しながら検討することとなる。現状で新たな学科を増やすことは難しいと考えるが、多くの要望等があれば、検討する可能性はあるものと思われる。

**【県教委】**

- ・ 宮古ブロックにおいて、必要な学科等について、具体的な御意見をいただき感謝申し上げます。
- ・ 産業人材の育成や地域にとって高校の存在は大きいものであるということは十分理解しているものの、将来を担う子どもたちにとって、どのような教育環境を整えていくかという視点から考えることも重要であり、未来の子どもたちに対して良い教育環境を残していくことが、我々大人の責任であるものと考えたときに、教育の質の保証と機会の保障というものをしっかりと考えていく必要があるものと思っている。
- ・ 後期計画後も生徒数の状況等を見据え、本日いただいた御意見については、後期計画策定に十分生かしていきたいと考えている。

## 後期計画の策定に向けた地域検討会議(第3回)【宮古ブロック】

## 出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	宮古市	佐藤 廣 昭	宮古市 副市長	代理
2		櫻野 甚 一	宮古商工会議所 専務理事	代理
3		小林 昭 榮	田老町漁業協同組合 代表理事組合長	
4		伊藤 晃 二	宮古市教育委員会 教育長	
5	山田町	甲斐谷 義 昭	山田町 副町長	代理
6		阿部 幸 榮	山田町商工会 会長	
7		小原 裕 毅	山田町立山田中学校PTA 会長	
8		佐々木 茂 人	山田町教育委員会 教育長	
9	岩泉町	末村 祐 子	岩泉町 副町長	代理
10		三田地 和 彦	小本浜漁業協同組合 代表理事組合長	
11		熊谷 浩	岩泉うれいら商店会上あめや 代表	
12		佐々木 博 明	岩泉町PTA連合会 副会長	
13		三上 潤	岩泉町教育委員会 教育長	
14	田野畑村	似内 誠	田野畑自動車工業株式会社 代表取締役	
15		中村 房 永	田野畑村漁業協同組合青年部	
16		佐々木 栄 春	田野畑村立田野畑中学校PTA 会長	
17		相模 貞 一	田野畑村教育委員会 教育長	
18	地区中学校長代表	伊茂野 達 哉	岩手県中学校長会 理事(宮古市立第一中学校長)	

## 【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
19	県議会議員	伊藤 勢 至	岩手県議会議員	
20		佐々木 宣 和	岩手県議会議員	
21		城内 よしひこ	岩手県議会議員	
22	県立高等学校	宮 学	山田高等学校長	
23		遠藤 拓 見	宮古高等学校長	
24		熊谷 和 浩	宮古北高等学校長	
25		小原 貴 人	宮古工業高等学校長	
26		鈴木 卓	宮古商業高等学校 副校長	
27		山田 浩 和	宮古水産高等学校長	
28		村上 和 隆	岩泉高等学校 教諭	

## 【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
29	県教育委員会 事務局等	松葉 覚	宮古教育事務所長	
30		上平 義 浩	宮古教育事務所企画総務課長	
31		熊谷 純	宮古教育事務所教務課主任指導主事	
32		梅津 久仁宏	教育次長	
33		木村 克 則	学校調整課首席指導主事兼給括課長	
34		藤澤 良 志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
35		谷地 信 治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
36		市丸 成 彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
37		小野寺 一 浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
38		女鹿 光 介	学校調整課高校改革担当主査	